

【計画名：大原美術館を中核とした倉敷美観地区の文化・観光推進計画】

①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R2			R3			R4		R5		R6	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
来訪者の満足度(日本人) (%)	85	感染症対策のためアンケートを十分に実施できなかった。	—	85	76.7 ※当初想定 のアンケート調 査項目より変 更あり	90%	90		90		95	
来訪者の満足度(外国人) (%)	85	—	—	85	—	—	90		90		95	
来訪者数(日本人) (千人)	60	70	117%	200	100	50%	300		320		350	
来訪者数(外国人) (千人)	3	0	0%	5	0	0%	8		13		15	
倉敷美観地区への来訪者数に対する、大原美術館入館者数の割合増加 (%)	5	4.5	90%	8	倉敷市観光統 計書未発表	—	10		13		15	
観光型宿泊施設宿泊者の、大原美術館への入館者割合の増加。 (%)	5	1.5	30%	5.5	1.1	20%	6		7		8	
大原美術館入館割引券等取り扱いの飲食、土産店の増加 (件)	40	—	—	45	—	—	60		75		100	

③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R2	R3	事業類型毎の実績額
事業1-①	大原美術館 所蔵品データベースのデジタル化とそのエンドユーザー向けの活用	新規写真撮影と、資料のスキャニングを実施	データベースの雛形フォーマットの制作と運用実験を実施	11.1百万円
事業1-②	旅行者、近隣宿泊施設との商品造成	リサーチと、近隣の観光関係業者(宿泊、飲食)との打ち合わせのみ実施したが、当初計画事業は延期。	近隣の観光関係業者(宿泊、飲食)と、試行的な連携事業を実施したが、当初計画事業は延期。	
事業1-③	ツアーガイド育成とプログラム提供	大学生、企業研修等の受入れを実施	関係団体と連携して研修実施	
事業1-④	ユニークベニューの活用	倉を改装した施設間の打ち合わせを実施したが、当初計画事業は延期。	倉敷民藝館、倉敷考古館、語りい座大原本邸との協同事業を実施したが、当初計画事業は延期。	
事業1-⑤	大原美術館 チルドレンズ・アート・ミュージアム	中止	中止	
事業1-⑥	大原美術館 いこうdeオオハラ	中止	中止	
事業1-⑦	大原美術館 現代作家との取り組み「ARKO」「AM倉敷」「有隣荘特別公開」	中止	中止	
事業1-⑧	旧第一合同銀行倉敷支店の建築を改修しての大原美術館 新児島館(仮称)建設工事	設計、着工準備。運営案の検討。	新児島館(仮称)として暫定開館	2.5百万円
事業2-①	大原美術館 HPでの情報提供の増加と多言語化、ならびにアクセス強化	WEBでの動画公開を実施	WEBでの公開動画数の増加。その他のブラッシュアップを実施	
事業2-②	大原美術館 新規所蔵名品図録制作	解説文書の執筆と翻訳に着手	レイアウト確定まで実施	
事業2-③	大原美術館 各種レクチャー、シンポジウム	中止	中止	
事業2-④	大原美術館 学校等の団体受入れ	原則中止。感染拡大防止の観点から、規模を縮小して実施	原則中止。感染拡大防止の観点から、規模を縮小して実施	

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡山県最大の観光地である倉敷美観地区は、COVID-19感染拡大による影響(来ない、開けられない)による来訪者数の激減となった。そのため目標達成についての分析にあたって大きな影響を受けた。具体的には下記のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> 特に外国人来訪者は、令和2年以降、ほぼ0に近い状況。ちなみに、令和元年の実績は13,857人。 満足度調査については、感染拡大防止の観点から、アンケートの在り方そのものを見直さざるを得ず(接触しない、時間をかけない)、指標に対応したヒアリングすら難しくなった。 大原美術館と近隣施設との連携の在り方(商品造成)も回遊促進よりも、一定の集団を受け渡す形を模索せざるを得なくなった。 (評価) <ul style="list-style-type: none"> 倉敷美観地区への来訪者、大原美術館への来館者とも、目標には遠く及ばなかったが、上記の通り、自助努力ではいかんともし難い状況であった。 「大原美術館入館割引券等取り扱いの飲食、土産店の増加」目標については、こうした回遊促進型の取り組みそのものを見直さざるを得ないこととなった。

事業番号	事業名	R2	R3	事業類型毎の実績額
事業3-①	大原美術館 Wi-fi環境整備	倉敷市、倉敷ケーブルテレビと連携し、敷地内での倉敷フリーWi-fi導入	倉敷フリーWi-fi受信エリアの拡張。新児島館(仮称)の環境整備。	1.5百万円
事業3-②	大原美術館および周辺施設間の移動導線を示すサイン計画	当初計画は中止。委託業者の選定のみ実施。	当初計画は中止。委託業者である株式会社丹靑社との打ち合わせを実施。	
事業3-③	大原美術館の所蔵作品と建築を活用したVR(virtual reality)空間の創出と、その課金システムの構築	3つの展示室をVRにて公開を実施	すでに公開済のVRを活用しての教育活動の実施。1室分を新規制作。	
事業3-④	鑑賞者と作品双方に、安心で安全な大原美術館の環境整備	感染拡大防止の諸施策を実施	感染拡大防止の諸施策を実施	
事業4-①	知的資源の商業的活用を検討	近隣地域にある資源の再リサーチ活動を実施	新規4商品の完成。	0.1百万円
事業5-①	旅行者、近隣宿泊施設との提供による観光客誘致活動	旅行者、近隣宿泊施設との打ち合わせ	1-②の実施。井原鉄道でのアート列車運行を実施。	0.1百万円
事業6-①	ニューノーマルでの鑑賞環境整備	事前予約・決済システムの検討	音声ガイドの個人所有デバイスでの提供準備。	9.5百万円
事業6-②	大原美術館 展示施設における照明設備更新	LEDスポット照明器具の選定と、1展示室への設置	LEDスポット照明器具を使用した展示室の増加	
事業6-③	大原美術館 本館、分館、建物間導線の改修事業	本館空調工事(補助対象期間外となる)を実施	分館地上部分の空調工事。	
事業6-④	旧第一合同銀行倉敷支店の建築を改修しての大原美術館 新児島館(仮称)建設工事	設計、着工準備。運営案の検討。	新児島館(仮称)として暫定開館	
各年度ごとの実績額→		4.8百万	20.0百万	24.8百万円

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

	↓文化観光拠点施設名
要件	公益財団法人大原美術館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	館内での掲出物は、感染拡大防止の観点から、読むための滞留時間を短くするために、文章量を減らす努力をせざるを得ない状況。一方で、オンラインの活用には積極的に取り組み、作品解説や美術館の概要説明の動画、VRなどの提供を開始した。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	上記に関わるが、HPでの一方通行的な情報提供のみならず、ZOOM等を活用しての双方向型のオンラインツアーを実施。それも、旅行の代替品としての営利性の強い商品から、岡山県内の大型病院内にある院内学級が複数参加してのレクチャーやワークショップをはじめ、公益性の高い教育的コンテンツの提供までカバーするものとなった。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	新規所蔵品図録の英語版作成を進めている。またこの作品解説執筆と翻訳作業をけん引役にして、HPや無料配布のリーフレットでの展開が具体化しつつある。令和4年月中旬以降の、入国制限緩和によるインバウンド需要に対応するよう、着地客向けの情報提示の環境整備を進める。また通訳案内士との連携による富裕層対応の準備を進めている。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	元来、他地域に比べての宿泊、飲食、文化施設が密接な関係をもつ倉敷美観地区であるが、covid-19感染拡大により、リスクマネジメントも含めて、運命共同体的な連携関係が生まれている。これをインキュベーションとして、すでに共同で観光商品造成も進めているが、さらに感染終息後の積極的な活動を検討している。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	当館内の所蔵作品や資料に関する整理、分析は大いに進展した。観光事業に関わる各種データの収集は、共同事業者である倉敷観光コンベンションビューロー、包括連携協定を締結した倉敷市の観光部局と協力して実施。また文化政策、観光関係の外部専門家のリサーチを積極的に受入れ、意見交換と継続的な関係維持に励んでいる。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立	当館の運営に関しては、月次単位で、各事業の進捗とその収支についてPDCAサイクルの確認を実施している。しかしながら入館者数の激減による採算面での逼迫などにより、先行きが見通しづらい状況であった。令和4年以降、改めてKPIの設定をするなど検討して、文化観光事業の適切な促進に努めたい。

⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

倉敷美観地区の文化・観光施設間の連携は緊密であり、これまでも相乗効果を生み出す取組も多かった。しかしながら、令和2年初旬からのcovid-19感染拡大によって、旗艦施設ともいべき大原美術館のみならず、各施設の来訪客は激減し、通常の運営そのものの見直しを迫られることとなった。それゆえ、本計画において当初目指していた発展的な成果を求めることは極めて困難となった。そのような状況に対応するため、NPOベースで活動する中間支援型組織も含めて、新たな活動のための基盤整備、そして具体的な連携事業も生まれている。持続可能な文化・観光事業の実現と更なる発展に繋がる新たな土壌整備が進んだとも言える。ようやく本令和4年度のゴールデンウィークには、倉敷美観地区への来訪者数も復活の兆しを見せ、また7月から9月にかけて、岡山県域が、JR西日本が主導する大型観光キャンペーンの対象となるため、国内集客の増加が見込まれる。さらには、入国制限緩和によるインバウンド需要も見込まれるため、この3年ほどで向上した連携関係を活かしての活動を、本計画の実施により活性化させられると認識している。

記入者：倉敷観光コンベンションビューロー

④事業の進捗状況に関する分析・評価

<p>【記載欄】</p> <p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業1～⑧により、新児島館（仮称）として暫定開館した施設は、建築のみならず、展示されている現代美術作品への評価から、開館から3ヶ月ですでに、倉敷美観地区の新名所と評されるようになった。 ・事業3～③により制作したVR（virtual reality）は、当館HPにて無料公開。来館が難しい、また自宅待機を余儀なくされている観客に向けて、当館が提供するわいわいカフェの重要なけん引役となった。またオンラインでの教育活動にも、効果的に活用できている。 ・事業6～②により導入したLEDスポット照明器具の効果により展示場の印象が変わった。なにより、感染拡大防止のためのガイドラインに沿った展示を実現するために、大きな成果を上げた。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客型事業については、企画展や各種教育プログラムをR2、R3にわたって原則全て休止せざるを得なかったため分析、評価の対象とできなかった。 ・各種会議、打ち合わせも、移動制限によりほぼ開催することができず、当初予定の進捗状況を大きく遅らせた。 ・VR（virtual reality）をけん引役にオンラインコンテンツの提供が、感染拡大下での美術館活動の可能性を広げた。 ・未だ先行きの見通しがつかないなか、財政状況も危機的に逼迫しているが、そうした中でも、新児島館（仮称）の暫定開館は、当館および倉敷美観地区に新たな活力をもたらせた。

⑦今後の改善の方向性

大原美術館は、令和2年以降の入館料収入の大幅な減少によるランニングコストの不足分を充足させるために約1億5千万円、さらに新児島館（仮称）を暫定開館させるための躯体工事のため別途に1億円程の借り入れを行った。

こうした状況下ゆえ、再投資に至るまでの収益確保を短期的に実現することは極めて難しいと考えている。しかしながら、近隣観光関係施設、さらにNPOベースの関係者との従来からの親密な関係は、この2年間あまりでさらに深まり、また感染拡大による図らずも余儀なくされた発想の転換もあって、広く社会全体の生活様態の変化に即して、教育型商品造成やオンラインを活用したコンテンツ提供など新たな協同事業について着手した。

本計画に基づく事業においても、残る3年で、新たなパラダイムでの活動をブラッシュアップし、多くの来訪者への良質な機会の提供を心掛けると同時に、高単価型の商品を主力とした収益化を新たな目標として設定したい。

並行して、本計画事業でも当初から想定していた鑑賞環境改善のための施設工事も、この3年での完了を目標にし、文化観光拠点として潜在的な適性を顕現させたい。